

全日本民医連 第46回定期総会

～ 70年の歴史を力に、「ケアの倫理」を深め、発展させよう～

2月22日(木)～24日(土)、全日本民医連第46回定期総会が沖縄県那覇市にて開催され、代議員601名と全日本民医連理事らが参加し、運動方針案・決算・予算などについて討論しました。総会では運動方針案に対して活発な意見交換がなされ、これまでの各地での取り組みやこれからの課題について確認されました。

青森民医連から18名の代議員が参加しました。代表して3名の方から定期総会の感想を寄せていただきました。



健生病院 高橋 亜実

今回、青森民医連の代議員の一人として、定期総会に参加させていただきました。非常に多くの学びがありましたが、特に他県連での取り組みに関する発言には大いに刺激を受けました。教育や職員育成といった分野では、この先自分がどのようなことをやっていきたいか、より明確な見通しが持てたと

感じています。運動方針にある「ケアの倫理」については、概念として認識され始めたばかりで職場での課題は多いと感じるので、実践に向けてまずは学習を深め、ケアを大切にする土壌づくりから取り組む必要があると思います。患者さんが安心してかけられる医療機関を守ることはもちろんですが、その前提として、職員一人一人が大切にされる職場を目指していきたいです。



あおもり協立病院 菊池 久美子

1日目の本会議では、増田会長からの挨拶では冒頭、「この瞬間にも能登地震で自ら被災しながらも懸命に奮闘している職員がいる、亡くなられた方に黙祷をします。」と発言がありました。2年前の45回総会と同時に始まったロシアによるウクライナ侵略は未だ停戦の兆しさえ見えないことなどがあげられ、今後2年間何に集中して取り組むのかを表現する3つのスローガンについて内容を深めました。スローガンでは全国の事業所で経営困難ではなく危機の状態である事、2024年度のさらなる診療報酬の改悪を組織あげて課題に臨むことが重要だという事、さらにジェンダー平等など「ケアの倫理」をさら

に深めていく重要性について補足され「ズキズキワクワクする総会にしましょう」と締めくくりました。

2日目は本会議を受けて代議員が13の分散会に分かれ発言し内容を深めました。すべての職種で「職員育成」について課題を共有しました。各事業所の発言では参考になる内容が多くみられました。元気になる前向きな意見が多く、共同組織の方の参加や来賓の公認会計士の方からの発言もあり非常に参考になりました。

3日目は、本会議となりました。スローガンの修正と議案の決議し満場一致で可決されました。この総会の熱気を現場に持ち帰り現場で方針を深めていきたいと思っています。



大野あけぼの薬局 藤田 恵里

第46回定期総会は4年ぶりに集合開催となりました。

まず、全日本民医連増田会長より第46回総会スローガンと運動方針案の提案がありました。次に、記念講演では中西常雄先生を講師に迎え「沖縄民医連の医療活動」について講演していただき、国策に翻弄され続けている沖縄のたたかひのなかで“勝つことはあきらめない

こと あわてず ぶれず あきらめず”という言葉が印象的でした。総会を通して630人の発言があり、利用者アンケートから補聴器助成につなげた事例や石川県の避難所の状況の報告、人材育成や人材確保、地域を守るための経営など参考にしたい発言も多数ありました。他県連の活動や多職種の発言を聞くことで新たな気づきを得る機会となりました。



第24回 精神医療・福祉交流集会 報告

2023年11月24日(金)～25日(土)の2日間に、全日本民医連第24回精神医療・福祉交流集会が、アートホテル弘前シティにて開催されました。コロナ禍を経て、この交流集会が現地開催されるのは実に5年ぶりだそうです。全国から約100名の参加者が現地に集い、「今、精神医療・福祉の時代だ」をテーマに、現在の自分たちの活動の到達点を報告したり、課題を深め合ったりしました。

藤井克徳氏(NPO法人日本障害者協議会代表)による基調講演では、優生思想をめぐる過去の事実と日本における優生保護法の実態、そして障害者権利条約制定から批准までと、障害者の権利をめぐる歴史と精神障害関連政策の現状の評価についてお話をいただき、精神保健医



療福祉における変革の必要性が強く示されました。また、現地企画では、長く津軽保健生活協同組合で精神医療に関わり、またその経験を生かして福祉領域でも活躍された石田悟氏(薬剤師)の講演と、それを受けて青森民医連の専門職者らによるミニシンポジウムが開かれ、専門職者が大切にすべきマインド、そしてそれをいかにして組織、あるいは地域における文化として根付かせていくかということ共有しました。私たちが今後変革すべき方向性が、人権問題とともに具体的に示唆されたように思います。

「今、精神医療・福祉の時代だ」。私たちは、過去を学び、今この時代がどのような時代であるのかをしっかりと認識し、精神保健医療福祉の、民医連の役割を果たしていかなくはなりません。今回の交流集会は、過去と現在を結び、そして未来を変革していくための、未来志向の交流集会であったと私は評価をし、今回の報告の結びとします。(健生クリニック 主任 高木友樹)

若年層の定着や幹部養成など様々な課題がある中、事前に各自の問題意識や課題を挙げたワークシートをもとにテーマ別分散会に臨み、そのあとSGDをするという流れで2日間行われました。SGDでは問題意識を共有して課題整理し、事務育成において大切にすることや討論を通じての気づきをうけて現場で取り組みを進めるための具体策を考えることになりました。2日目には分散会のあと『多職種幹部から事務育成への期待』というテーマで医師の平田理全日本民医連副会長と看護師の須田倫子理事からご講演いただき、事例から学んで行動力を付けてほしいとの提起がありました。この集会を通して事務職員の3つの役割を再認識し、多職種協働の中で育つことが事務集団の役割であるコーディネートとしての力量を高められる



のだと感じました。そして、安心してキャリアアップできるビジョンを持つてもらうことが必要だとも感じました。今回学んだたくさんの取り組みを職場で活かし、事務育成を前進させていけたらと思います。(中央あけぼの薬局 吉田和美)

第45期 多職種と共に育ちあう

事務育成実践交流集会

「多職種協働の中での事務育成」についての

取り組みを学ぶ

2023年12月21日(木)～22日(金)の2日間、東京TOC有明で全日本民医連第45期『多職種と共に育ちあう事務育成実践交流集会』が開催され、全国の県連から130名が参加、事務育成についての取り組みが全38演題発表されました。

2023年度

民医連統一会計基準推進士フォローアップ講座



1月27日(土)に浪岡中央公民館で「民医連統一会計基準推進士フォローアップ講座」が開催され56名の参加がありました。講師に協働から千葉啓公認会計士を迎えて民医連会計の基本と決算書の読み方について学習しました。

前半の講座では民医連統一会計基準の意義と財務諸表の見方を中心としながら、必要利益の確保と中長期的視点での資金管理の重要性について学びました。後半は医科法人の実際の決算資料を活用して経営分析の演習を行いました。演習を通じてリアルな経営状況を目の当たりにして強い危機感をもつとともに、経営改善なしには存続が危ぶまれる状況であることを実感することになりました。

折しも全日本経営部の問題提起では「民医連経営はいま危機にある」として全国的に深刻な経営状況に陥っているとの見解が示されましたが、青森県連も決して例外ではないことが分かり、このような状況だからこそ推進士に求められる役割が重要であることを参加者全員が認識する機会となりました。

(株式会社ファルマ
専務取締役 崎野修)

●●● 全日本民医連 薬局法人経営学習会 ●●●

中長期的視点で捉える「必要利益」の重要性 —「中長期経営計画」の策定方法—

2月17日(土)、薬局法人経営学習会がオンラインで開催され、全国の薬局法人から約140名が参加しました。経営幹部だけでなく事務職責者や薬剤師などの参加もあり全国的な経営の厳しさからか関心の高さが伺えました。

協働公認会計士共同事務所の千葉啓公認会計士を講師に迎え「必要利益の重要性、中長期経営計画策定方法や意義」などについて学習しました。

講演では、事業を継続させるために「どの程度の資金が必要なのか」「その資金を確保するためにはどの程度の利益が必要なのか(=必要利益)」を数値化し全職員共通の認識とすることの重要性を確認しました。また中長期経営計画から単年度必要利益を捉えることや、策定が目的ではなく、そこから「全職員参加の経営」の資料として議論がスタートすることなどを、SGDで共有し各法

人での経営課題なども報告しました。

ここ数年の薬局経営は、コロナ禍の受診控えによる処方箋枚数の減少、調剤報酬改悪や毎年の薬価引下げによる薬価差益の減少、薬剤師不足や医薬品の流通問題など全国的に厳しい経営状態が続いています。あらためて中長期経営計画の重要性と、法人単独ではなく民医連の強みを生かした連帯による総合的発展をしていくことを確認する貴重な機会となりました。

(一般社団法人あおもり健康企画 常務理事 成田卓弥)

全日本民医連 第51次辺野古支援・連帯行動に参加して

1月11日(木)から3日間の日程で辺野古支援・連帯行動へ参加しました。1日目は米軍基地見学と辺野古・高江の学習をし、世界一危険な普天間基地では近くに学校等がある中で、約24機ものオスプレイが配備されタッチアンドゴー訓練が繰り返されている現状、沖縄戦の悲惨な過去、日本政府の思いやり予算により1人に800万円が支払われ米軍の住宅の大きさ、凄さになっていることを学習しました。見学では嘉手納基地を展望できましたがF-35戦闘機が110デシベルの爆音を立てながら本場の戦争さながらのような訓練をしており、想像を絶する凄い音に衝撃を受けました。2日目は辺野古支援・連帯行動と情勢学習をしました。連帯行動に行くとき、日本の警備会社警備員が2人おり、ゲートの所では4人態



勢で警備されていました。この警備会社へは1日1,200万円の支払いがされているという話を聞き唖然となりました。辺野古基地建設は1兆



を超える費用がすでに支出され、業者は大手ゼネコン大成建設が元請けで政府との絡みが強いことを学習しました。3日目は沖縄戦学習と戦場巡りで糸数アブチラガマ・ひめゆり平和祈念資料館へ行くことができました。ひめゆり学徒隊の学習をしていた時、この3日間の活動を通しての感情が溢れ出し、涙がとまりませんでした。戦跡巡りの辛さを体感し、今も繰り返されている戦争が無い世の中になってほしいと願いを込めて、ピースアピール運動により平和な日本となるよう今後も声をあげていこうと思います。

(社会福祉法人・花 自立訓練(生活訓練)事業所「しばざくら」生活支援員 板垣政行)

そして、医療の現場も例外ではないという事がすぐく伝わってきました。何よりも現地の民医連の職員は医療従事者として被災者を助けている一方、自分も被災者であるということ。このような苛烈な状況で奮闘している職員の為にも、同じ民医連の仲間として出来ることを最大限考え協力したいと強く思いました。一刻も早い復旧の為に共に頑張りましょう。(青森保健生活協同組合 山田堯門)

1月1日に起きた能登半島地震発生時、当時自分は自宅におり家族と過ごしていました。速報で流れてくるニュースに釘付けになっていたのを覚えています。津波警報が即座に出される中、ニュースに映し出されるライブカメラを見ながら津波が来ない事を祈りつつ現地の人々が一刻も早く避難できていることを願っていました。

しかし、1月30日(火)に開催された交流集会で被害の甚大さを痛感させられることになりました。建物は倒壊し道路は地割れだらけ、沿岸部では津波による被害、山間部では土砂崩れ。避難所による衛生面の悪さからの感染症。まさに現地はボロボロの状態ということでした。

オンライン
社保委員長
学習交流集会
感想

全日本民医連 看護代表者会議 4年ぶりの集合開催

2024年1月29日(月)から30日(火)に、東京有明で全日本民医連看護代表者会議が開催され全国から約140名の看護管理者が集まりました。副会長の川上和美氏より開会挨拶がされ、2日間で3つの学習講演と「看護分野の重点課題の到達と次期の課題」、看護委員の各チームから看護管理実態調査等4つの報告がありました。特に印象的だった講演は東京大学大学院教育学研究科教授の本田由紀氏による「戦後の日本とケアが大切にされる社会への展望」、事務局次長の岩須靖弘氏から「民医連看護管理者に期待するもの」と題し熱いエールが送られました。また石川県連から能登地震についての被災状況や支援のお礼が述べられ、当県連から応援メッセージを送らせていただきました。

30日昼から国会議事堂へ移動し看護の処遇改善のための行動＝ナースアクションに参加し二人の議員に訪問し処遇改善の訴えをしました。15時から約240名の民医連の看護学校の教員や保育士、看護管理者が院内集会を行い、3つの要請「すべての看護職員の処遇を求める要請」「高等教育無償化と経済的不安なく看護職を目指す環境整備を求める要請」「院内保育所充実に向けた要請」について行政担当者から回答をもらいました。8人の国会議員より直接応援をいただき成功裏に終わることができました。全国の仲間とともに沈黙せずに行動し改善されるまでたたかう勇気と元気をもらった二日間でした。(健生病院 総看護長 越田潤子)



2023年度 冬の高校生医師体験



健生病院では検査科、健診科、リハビリテーション科、放射線科、病棟に分かれ各職場で工夫を凝らした体験や学習を行い、多職種から見た医師の役割や日常的な関わりについて学びました。八戸生協診療所では医療機器体験や和田尊行医師の講演、青森会場では磯島寿人医師より「患者中心の医療とは？」をテーマに講演を行いました。講演は誰のために・どんな医療をするか・どんな医師になりたいかを問いかける内容で、参加者からは「医師体験を通して患者さんを助けたいという気持ちが高まりました。これからも医師になることを諦めずに頑張ります」「患者さんのことを第一に考える講演は初めて聞きました。患者さんのために何が出来るかを考え実行する姿に共感し、私もそのような医師を目指したいと思いました」と感想がありました。また、全会場で研修医による縫合体験と交流会を行い、「研修医の先生方と体験や交流会を通して長い時間一緒に過ごすことは、ここでしかない貴重な体験でした」「縫合体験は医師らしいことをしているという感覚がありワクワクしました」と好評でした。今後も高校生医師体験でのつながりを活かし、

(青森民医連 葛西美芽)

12月26日(火) 八戸生協診療所、12月27日(水)、28日(木) 健生病院、1月6日(土) 協立クリニックの3会場にて4回開催し、医師を目指す高校生47名が参加しました。



県連医学対大運動

～医学部一般入試の取り組み～

200人弱の受験生と対面・

対話でのつながりをつくった2日間

2月25日(日)～26日(月)に弘前大学前期一般入試がおこなわれ、青森民医連は「大運動」の位置づけで宣伝行動に取り組みました。565人と近年もっとも多い受験志願者であり、「1人でも多くの受験生とつながる」ことを目標に事前準備としてJR駅のポスター掲示、受験会場近辺の宿泊施設や店舗への宣伝物設置などおこないました。

25日午前の宣伝行動は県連内の法人・事業所から15人の職員が参加しました。「頑張ってください」「午後から受験生相談会やります」との職員からの声掛けとともに資料を渡しました。資料の受け取りも178部と手ごたえのある宣伝でした。この時の声掛けの甲斐もあり、午後の受験生相談会は

30人の参加と盛況でした。3人の医学生による自身の面接試験の経験からのアドバイスに受験生は真剣に耳を傾けていました。受験生にとって不安を解消し自信を持って面接試験に向かうきっかけとなりました。

26日の対話アンケート宣伝には15人の職員が参加しました。面接試験を終えた受験生からは「相談会で聞いたお話が参考になった」「相談会での医学生のアドバイスのおかげで緊張しなかった」といった声が聞かれました。この日は163人の受験生がアンケートに答えてくれました。

宣伝物の配布数、受験生相談会への参加数、対話アンケート数、これらの全てが昨年を上回る取り組みとなりました。

この大運動でのつながりを生かして4月からの新入生歓迎の取り組みを成功させ、青森民医連の医師の確保と養成の前進につなげていきたいと思います。

(青森民医連 原圭輔)



2023年度

薬剤師中期研修「心不全患者から求められる薬薬連携～初級編～」

12月16日(土)、浪岡中央公民館にて2023年度薬剤師中期研修を開催し、29名の薬剤師が参加しました。講師に仙台循環器病センターの千葉貴志薬剤部長をお招きし、心不全患者から求められる薬薬連携について講義をして頂きました。



講義の中で、腎不全の病態を交えてお話しする場面があり、アンケートでは来年度は腎不全編を望む声が多く聞かれました。来年度は腎臓編が開催されることを期待したいと思います。

(健生病院 赤平祐一)

配布資料には、各所にQRコードが添付され、その都度スマホで読み取りアンケートに回答、参加者の考えや理解度を全体で共有しながら講義が進行しました。私はこの形式の講義は初めての経験で、非常に画期的だったと思います。最初のアンケートで、心不全について普段携わっていない、苦手分野と思う薬剤師は少なくありませんでした。

講義は初級編ということもあり大変分かりやすく、心不全の見るべきポイントを示してくださりました。なぜ心不全にACE阻害薬、βブロッカー、ARNIが使用されるのかを論文を示しながら講義していただきました。症状により左右、心房・心室のどの心不全かを見分けるポイントが示されました。薬剤の使い分けについてはおそろしく次回の上級編となるであろうと思います。次回の講義も大変期待できるような内容でした。

グループディスカッションでは、3、4人でグループをつくり、症例患者が服用している薬剤についての問題点を検討し、グループ毎に発表しました。発表後千葉先生の解説があり、自分のグループでは出なかった意見や千葉先生の解説を聞いて、さらに深いところまで掘り下げることができました。今回の学習と次回の上級編を経て、心不全についての苦手意識の改善と知識を深めていけると思います。

2023年度

北海道・東北地協1年目、 2年目薬剤師研修会

「ALPS処理水海洋放出について、
事故から13年の福島原発と県民の実態に触れて」

2024年2月3日(土)、オンラインにて2023年度北海道・東北地協1年目、2年目研修会が開催され、33人が参加しました。前半では講師に野木茂雄氏を迎え、福島原発とALPS処理水について講義していただき、後半では民医連薬剤師での意見交流をしました。

野木氏の福島原発のお話では、各号機の事故後の現状や、こういった仕組みで処理水ができていくのかを詳しく教えていただきました。また、福島には現状でも立ち入ることのできない地域があり、いろいろな公共機関やお店がなくなってしまう住む地域を変えざるをえない方々がたくさんいることから、事故後も被害は続いていることがわかりました。さらに、ALPS処理水の海洋放出については、報道ではあまり耳にしない海洋放出以外の代替案もたくさん知ることができ、さらに海洋放出中止が必要だと感じました。やはり災害の多いこの日本では、原発がとても危険だと改めてわかりました。



交流では、各薬局での待ち時間の工夫や、それぞれが困っていることなどについても意見交流できました。勤務年数も近い薬剤師のため、悩みなども近いものが多く、互いにアドバイスし合えるいい時間となり、今後の業務や民医連活動に活かしていきたいと思いました。

(フアルマ弘前薬局 田中理久)

虹のバレンタイン行動

青森保健生協

**虹のバレンタイン行動実施！
市民の生の声を調査しました！**

2月14日(水)、さくら野百貨店前で「虹のバレンタイン行動」を青森保健生協、あおもり健康企画、社会福祉法人虹の3法人共催で実施しました。

3法人から36人が参加し、通行人にチョコレートやバレンタインカードを配りながら社会保障を充実させることの大切さや憲法改悪の反対を訴えました。



また、街頭アンケートを実施し、2023年6月に可決成立された健康保険証を廃止してマイナンバーカードと一体化させる法案に賛成か否か通行人の声を調査しました。その結果、賛成3人、反対43人となり市民の生の声を聞くことができた機会となりました。同時に呼びかけていた「現行の健康保険証を残してください請願署名」も41筆集まりました。

(青森保健生協 鳴海騎士)



八戸医療生協

～2023年度のバレンタイン行動～

2月14日(水)13時30分から14時、30分という短時間でしたが、コープあおもりりいけ店前の歩道で行いました。理事、職員合わせて14名が参加し、カードの手渡しと、署名の呼びかけを行いました。天候は珍しく穏やかなもので買い物に来られた方々に声をかけて署名にご協力を頂き、30筆の到達でした。初めて参加した職員もいましたが、積極的に声をかけて署名を集めました。

(八戸医療生活協同組合 佐々木美音緒)





「わたしのストレス解消法」寄せられた内容

309号(2024年1月号)お年玉プレゼント応募用紙に記載していただいたみなさまの内容の一部をご紹介します。

【食事】

- 甘い物を食べる
- いっぱい食べる
- おいしいデザートを食べる
- おいしいものを作って食べる
- 背徳感満点の食事
- お酒を飲む
- カフェでおいしいコーヒーを飲む
- 珈琲を入れて飲む
- たまに晩酌する
- 日本酒や果実酒を飲む
- おかし作り
- 餃子を大量に作る
- 料理を作る

【健康】

- 適度な汗をかく
- サウナ
- スポーツジムに行って運動する
- たくさん歩く
- 団地散歩
- 好きな入浴剤を入れお風呂に入る
- 雪かき
- 犬の散歩
- ヨガ
- 温泉に行く
- よく寝る
- 早寝早起き
- 山に登ること

【芸術】

- 絵を描くこと
- 音楽を聴く
- 韓国ドラマを見ること
- 韓ドラ、K-POP
- 中国の台湾時代劇ドラマ、ラブコメを一人で見る
- マンガを読む
- ユーチューブを見る
- 話題の海外ドラマを一気に見ること
- ウクレレ弾き語り

【家族(動物)・親族】

- 子どもたちの試合の応援
- 家族で桃鉄
- 子どもと一緒に思いっきり遊ぶ
- 孫と一緒に遊ぶ
- 姪と遊ぶ
- 愛犬とまったりする
- 犬との散歩
- 猫吸い

【その他】

- 編み物
- 頭を使う
- 1人カラオケ
- 推し活
- たのしいおしゃべり
- 岩木山神社に行く
- ひとり旅に出る
- 誰とも話さず過ごす
- 断捨離
- 写経に没頭
- 週に1度のお茶の稽古
- 手帳タイム
- 本屋をウロウロする
- プラス思考
- 洗車
- ドライブしながらカラオケ

ご当選 おめでとうございます!

今回のお年玉には**127通の応募を送っていただきました**。ありがとうございます。
県連事務局員(青森事務所)による厳正な選考と抽選の結果、以下の22名の皆さんが当選となります。おめでとうございます。

今後も、機関紙編集委員一同、みなさまのご意見・ご要望を励みにしながら一層充実した紙面づくりにつとめます。

1等 図書カード3,000円 2名

中西 奈美様(藤代健生病院)
熊谷 あかね様(藤代健生病院)

2等 図書カード1,000円 5名

山田 堯門様(青森保健生活協同組合) 西澤 望様(藤代健生病院)
三浦 孝子様(健生クリニック) 神 千穂美様(ファルマ弘前薬局)
土谷 咲子様(藤代健生病院)

3等 図書カード500円 15名

副田 幸子様(社会福祉法人虹) 小野 雅子様(協立訪問看護ステーション)
相馬 千加子様(藤代健生病院) 佐々木 浩子様(看護小規模多機能型居宅介護
名越 しおり様(弘前市第一地域包括支援センター) ナーシングホームたち)
尾田 紀子様(健生クリニック) 中尻 祭子様(生協看護小規模多機能ホー
藤沢 佳代様(健生クリニック) ム虹の家)
小館 由美子様(共同生活事業所あじさい) 鈴木 美穂様(安方クリニック)
和田 美穂子様(あおもり協立病院) 野澤 智美様(藤代健生病院)
小山内 千尋様(青森保健生活協同組合)
岩崎 志美子様(中部クリニック)
高橋 詩子様(藤代健生病院)

※応募いただいた時点で所属部署名で掲載しております。
※県連機関紙編集委員より、今年度中にお届けする予定です。

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気

MIN-IREN

2024 4月号 380円 好評発売中

被災地の診療所 能登半島地震

新連載 ケアマネの八面六臂な日々

けんこう教室 音楽療法

映画「その鼓動に耳をあてよ」

まちのチカラ 沖縄県今帰仁村

食と健康 栄養バランス弁当

発行一徳保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

うちのメコッこ

vol. 77

name

うみくん

ポメラニアン 男の子

age

4 歳



食えること大好き、おさんぽ大好き、遊ぶの大好き、元気いっぱいの子です。人というのが大好きでいつも私の膝の上のっています。でも犬が苦手で、慣れないわんちゃんには吠えちゃいます。普段はとても元気なのに、ビビリなところもまたかわいい、愛嬌たっぷりな我が家の大切な家族です。



一緒に暮らして4年にもなると、言葉は通じなくても何を言いたいのか、言っているのか、なんとなくわかってきます

し、こちらの言っていることも理解しているような行動をします。犬と見つめあうと幸せホルモンが分泌されると言われていますが、まさに一緒にいるだけで幸せな気持ちにさせてくれます。

毎日一緒におさんぽに行くことで、車生活の私の適度な運動にもなっています。これからも元気で一緒にいられるように、日々の生活を大切にしたいです。(協立クリニック 宮田まどか)

私の三つ星★★★★

オススメ

手作り餃子のお店 餃子のマルユウ ～五所川原唯一の餃子専門店～

五所川原駅から徒歩圏内、赤い提灯が目印の小さなお店です。

餃子の皮まで手作りといった大将こだわりの手作り餃子は天下一品です。

定番餃子・チーズ餃子・ザーサイ餃子・キムチ餃子・納豆餃子・手羽餃子などなど。

餃子メニューも豊富で、何を食べても旨いの一言です。ただ、餃子酒場ということで、白いごはんの提供は行っておりません。

その代わりといっちは何ですが、ドリンクメニューも



豊富です。中でも他店ではなかなか見かけることのない「中大ジョッキ」これまたビール好きにはたまらないちょうどいいサイズでおすすめです。

おひとり様でも気軽に入れる隠れ家的なお店ですが、大将ワンオペ営業のため、ご利用の際は事前予約をお勧めいたします。お客様の要望にお応えしてくれるサービス精神いっぱいの『餃子のマルユウ』に是非お立ち寄りくださいませ。(健生五所川原診療所 松山リナ)

＝ 人命救助、医療従事者として！ ＝

昨年10月9日(月)、私用で鰯ヶ沢を車で通りかかった際に、トラックと歩行者の事故現場に出くわしました。路肩に車を止め、事故現場に駆けよると、歩行者が意識のない状態で頭から血を流して倒れていました。呼吸や心拍を確認し、二次的な被害が生じないように注意しながら、救急隊の到着を待ち、状況を伝えました。意識不明で重症なため、ドクターヘリが要請され、到着までの間救急隊員とともに初期治療にあたりました。患者さんは大学病院へ搬送され、数日後に意識を取り戻し、2か月にも及ぶ入院リハビリを行って今は仕事(看護師)に戻るため自宅療養中とのことです。

患者さんから、「お忙しいとは思ったのですが、何とか一度お会いし、顔を見てお礼を伝えたい」との連絡があり、ご主人と一緒にあおもり協立病院まで足を運んでいただきました。事故当時のことを振り返りながら、患者さんご夫妻からあらためてお礼の言葉をいただきました。

元気になられた患者さんとの再会をとてもうれしく思い「長年急性期の患者さんを治療してきた経験がお役に立ててよかったです」と伝えました。

(あおもり協立病院 院長 相馬裕)

3月 2024年3月 第56期第23回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 決裁・承認事項
 - (1) 奨学生関係
 - ①看護奨学生申請
 - (2) 県連・地協・全日本関係
 - ①安方クリニックの脱退承認申請
 - ②青森県民医連第57回定期総会
決算予算案、スローガン案、方針案(素案)
 - (3) 各種委員会から
- >> 4. 協議事項
 - (1) 全日本民医連第46回定期総会
 - (2) 石川民医連への支援
 - (3) 青森県民医連学術運動交流集会
- >> 5. 医師・医学生関連
- >> 6. 報告事項
 - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
 - 1)「LGBTQ+についての民医連職員の意識調査」協力の依頼
 - 2)第52次辺野古支援・連帯行動開催要項・参加者募集の案内
 - 3)民医連SOGIEコミュニティLINEオープンチャット開設の案内
 - 4)通達一覧
 - (2) 地協
 - 1)リハビリテーション技術者交流集会の開催案内
 - 2)2024年度新入医師オリエンテーションの開催案内
 - (3) 県連・共関関係
 - 1)前回県連理事会議事録
- >> 7. 各法人・事業所から